委員会報告

水道事業広域化について

総務産業常任委員会

諏訪形浄水場

総務産業常任委員会は、11月17日（水）、上田長野地域水道事業広域化に関する研修として、県企業局により千曲川から取水し当町に供給している上田の諏訪形浄水場及び施設の周辺15か所の地下水から取水している長野の四ツ屋浄水場の2箇所、また主に神川水系を水源とし大正時代の面影が残る上田市営染屋浄水場と主に犀川水系のダムより取水している長野市営犀川浄水場を視察した。

午後には、長野市芸術館にて、「上田長野地域水道事業広域化に関するシンポジウム」に参加。厚生労働省水道課長の名倉良雄氏、東洋大学名誉教授の石井晴夫氏の講演のほか、県企業局、3市1町の担当者を交えたパネルディスカッションも行われた。

市町村が主体的に運営することが基本とされる水道事業は、将来的には人口減少等による使用料の低減から収入が大幅に減収し、加えて各施設等の老朽化、余剰、さらには耐震対策など、このまま水道事業を維持していくためには大きな負担となることが想定され、事態の解決に向け、全国的に水道事業広域化に対する問題提起がされている。

この研修で、まずは現状について包含する問題の確認をするとともに、将来にわたり安心・安全で安定的に供給できる水道事業にするため、さらに研究する必要を感じた。

（朝倉　国勝）

一般廃棄物最終処分場

社会文教常任委員会

エコパーク須坂

社会文教常任委員会は10月19日（火）に閉会中の調査として、「信濃美術館」の名前で馴染みがあり、3年4月に本館を建て替えた「長野県立美術館」と須坂市仁礼町にある「エコパーク須坂」の現地視察を行った。

県立美術館本館屋上広場からは、善光寺周辺の景色や里山の情景が一望でき、歴史的・自然風光を楽しんでもらえる点で、基本コンセプトである「ランドスケープ・ミュージアム」を実現した。

また、芸術家が作品を制作しているスペースも設けられている。芸術家と同じ空気に触れたり、話しを聞くこともでき美術館で出合い、語り合い、学び合う場所が設けられており、町にもこの様なスペースが欲しいと感じた。

次に長野広域連合一般廃棄物最終処分場のエコパーク須坂を視察した。この施設は、長野市及び千曲市の焼却施設で中間処理した溶融スラグ、飛灰処理物及び溶融不適物を埋立処分する最終処分場である。

敷地面積は約10・6ha、埋立面積は16700㎡、埋立容量は85000㎥となり3年2月より埋立を開始している。

施設の整備には、地元住民の深い理解が必要であった。また、現在のペースで埋立を行っていくと15～20年で埋立ができなくてなってしまうと説明を受けた。

当町もゴミの減量化、資源ゴミのリサイクルをさらに考えていかなくてはならないと感じた。

（大日向　進也）

18号バイパス工事現地調査

地域交通網対策特別委員会

11月4日(木)、地域交通網対策特別委員会は、総務産業常任委員会と合同で国道18号バイパスの現地調査を実施した。

平成26年度から用地交渉及び用地買収等が進められ、令和2年度末で約81％が完了。用地買収が完了した地区から工事用道路建設や盛土設置などの工事が始まっている。

調査した区間は、工事が行われている網掛区の現場であり、国土交通省職員、工事関係者、町建設課職員から説明を受けた。

現在、3ケ所の工事現場には高さ約2．5m、延長合計約310mの盛土があり、その脇を側道が整備されている。また、町道と交差する箇所についてもそれぞれ確認しながら、工事が行われている終点までの約600mを歩いて調査を行った。

なお、その先については、上五明区内においてバイパス工事に先立ち、埋蔵文化財発掘調査が実施されている。

現在も県道では通勤時間帯に激しい渋滞が起きている。国道18号バイパスの早期完成は、渋滞緩和はもちろんのこと安全確保につながる。今回の視察は改めてその重要性を感じる機会となった。

（山城　峻一）

ペーパーレス会議システム

議会改革等特別委員会

議会改革等特別委員会は11月8日(月)に閉会中の調査として、千曲市議会のタブレット導入によるペーパーレス会議システムについて視察研修を行った。

和田議長・柳澤副議長・議会事務局から説明を受けた。平成29年に議員有志によるタブレット導入研究会を発足、導入に向け課題について調査研究を重ねてきた。タブレット端末導入から運用開始までの経過、ペーパーレス会議システムやシステム導入のメリット・デメリット、初期導入費用及び維持に係る費用等の説明を受け、実際に体験した。

現在の活用としては、本会議のほか委員会や行事などのスケジュールの共有、連絡事項などのメール送受信、検索機能として使用している。

すべての資料がPDF化され、タイトルがつき表示されるので、非常に見やすく、誰にでもわかりやすく、使いやすいことがよくわかった。

これからの時代には、必ず必要になるであろうデジタル化とペーパーレス化だが、千曲市では議員のみタブレットを使用している。職員との情報共有をどうするかなどの課題や費用対効果も考え、今後、他の市町村への視察も含め検討していく部分は多々あると思った。

（祢津　明子）